



上智大学創立 100周年
上智短期大学創立 40周年
上智社会福祉専門学校 50周年



1. 中堅介護職のための総合的・専門的・継続的研修コース

1987年の介護福祉士資格創設からおよそ25年近くが経過し、介護福祉士の資格取得に必要な教育だけでなく、資格取得後の継続教育の必要性が指摘されるようになった。本校では早くから、この問題意識の下に、介護福祉士の継続教育を行うことを検討し始め、一養成校単独の企画として中堅介護職向けの研修を最初に実施したのは2005年4月のことである。



中堅介護職研修の講義(3号館教室)。研修は月1回土曜日、介護福祉士有資格者に限定して行われる

同時期に、やはり継続教育の視点から、全国社会福祉協議会が「ファーストステップ研修」を検討し、モデル的に一部の地域でスタートしていた。しかし、その研修の制度的な位置づけであるガイドラインを公式に発表したのは2009年のことである。このように、本校の継続教育への取り組みは、全国的にもあまり例のなかった時期から開始されている。

本校の中堅介護職研修は、施設や事業所で働く介護職が、それぞれのキャリアを重ね、将来的に目指す方向性を定め

て学ぶニーズに応えるため、今日まで、半期ごとのプログラムを実施し、修了者を輩出し続けている。2009年からは、福祉・介護職に向けて階層別研修などを体系的に実施していた東京都社会福祉人材センター研修室と、介護職の継続教育の目的を共有し、プログラムづくりから協働する形で、中堅介護職研修コースを共催で実施する形となった。

今後の方向性として、厚生労働省の検討会から報告されている介護福祉士資格取得後のキャリアパスとして「認定介護福祉士」がある。介護職の中でも数年のキャリアを持つ職員が、質の高い介護を行い、マネジメント等の組織の中核としての働きも行うことができるよう、認定介護福祉士を取得する時代が来ると予想されるが、本校の中堅介護職研修コースも、認定介護福祉士として認証される内容を念頭に置きながら、プログラムを構成していくことが課題となっている。

2. 介護技術講習会

介護サービス現場で働く人が、養成校に通学する形態として、2008年度から、本校介護福祉科では、「介護技術講習会」を実施している。この講習会は介護福祉士国家試験を受験する際、実技試験を免除される講習会として厚生労働省が認めているもので、制度

化されたのは 2005 年である。本校では、単に、実技試験免除という目的だけでなく、人間の尊厳に基づく介護、ヒューマンケアの視点を強調する特色に配慮して講習会を行なうこととなった。

通常、「介護技術講習会」は、40 名の受講者で行われることが多いが、本校では受講者



数をより少人数とし、一人ひとりに対してきめ細やかな指導を行うことに配慮している。

3. 介護福祉士国家試験対策講座

2と同様に、介護福祉士国家試験受験を目指す現職の介護職（無資格）の方々を対象として、筆記試験合格のための対策講座を行なっている。本校介護福祉士科の講座の特徴は、介護分野の専任教員と上智大学教授陣により、介護福祉士の新カリキュラムを念頭に置き、近年の傾向と対策を踏まえた内容を提供する点である。

介護技術講習会開始時の講義(10号館地下教室)。介護福祉士資格取得前の現任者を前に、校長の挨拶から講習会がスタートする

現在のところ、介護福祉士国家試験は実務経験が3年以上ある介護職が受験できるが、2015年度より、3年の実務経験に加えて、養成校での450時間の研修を受講することが義務付けられる。それと同時に、本校介護福祉士科の本科生（2013年度生から）にも同じ国家試験受験が義務付けられることとなっている。そのため、国家試験対策講座の内容は、介護福祉士科学生の授業全体においても活かされていくことが必要となっている。



中堅介護職研修の演習(第1体育場)。演習の中身はテーマによって多様。写真の場面は災害時の介護を実際に行なっているところ